

2022年度 政治・経済 学習プリント

第5講 日本初の憲法・大日本帝国憲法とは

1. 自由民権運動と憲法制定

明治政府は、西洋のような近代国家をめざして富国強兵・殖産興業を進めていたが、藩閥による中央集権的な官僚政府であったため、民主的な政治を求めて国会開設などを求める（1. ）の動きが高まった。

政府はこの運動を弾圧した一方、1890年に帝国議会を開設することを約束し、同時に憲法制定にも着手した。

2. 大日本帝国憲法の特徴

大日本帝国憲法の特徴として、以下のことがあげられる。

1) 主権を天皇とする

天皇は神聖不可侵のものであり、国家元首として統治権の総攬者と位置付けられた。三権の長であり、また（5. ）を持っていた。軍事と教育は勅令で行われることとなり、特に軍隊においては指揮・命令が議会や内閣の統制を受けない（6. ）となっていた。

2) 権利を制限したうえで認める

臣民（国民）の権利は天皇によって与えられるものであった。「法律ノ範囲内ニ於イテ」権利が認められるという（7. ）があったため、実際は治安維持法などによって権利は一定程度制限されていた。

3) 国会・内閣のポジション

帝国議会は天皇の（8. ）機関、各国务大臣は天皇の持つ行政権を（9. ）する立場であった。

大日本帝国憲法は近代的な憲法であったが、現代から見ると天皇主権を基本原理とした（10. ）の性質がみられる。

3. 憲法制定以降の政治

憲法が公布されたとはいえ、政治は依然官僚や軍部が支配する形が続いていた。

しかし、（11. ）とよばれる1910~20年代は、立憲主義の政党政治が行われていた時代である。1918年に初めての（12. ）である原敬内閣が成立し、1925年には25歳以上の男性を対象とした（13. ）が実現した。

普通選挙の実現と同時に制定された（14. ）は、当初共産主義を弾圧するためのものだったが、次第に自由主義にも適法され、国民の言論の自由は奪われていった。1930年代になると政党内閣は消え、軍部出身者による内閣や対立する政党も包含する挙国一致内閣へと変化していった。これらはやがて国家主義・軍国主義の確立へとつながり、日本は日中戦争・（15. ）に突入していくことになる。